

名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2022年2月24日

学部・学科名 外国語学部・日本語学科
世界教養学部・国際日本学科
担当教員氏名 坂本 正

1. 区分	中期留学 ・ 語学研修 ・ 海外実習
2. プログラム名称	釜山外国語大学校日本語教育実習
3. 渡航先国名	韓国（オンラインにて実施）
4. 派遣期間	2021年 8月 30日（月）～ 2021年 9月 10日（金） 12日間
5. 派遣先教育機関名	釜山外国語大学校
6. 参加学生数	6名
7. 派遣目的	釜山外国語大学校の学生を対象として、日本語授業の見学、オンライン教壇実習を行い、あわせて、異文化体験や釜山外国語大学校の学生との交流の機会をもつ。
8. 派遣内容	① 様々なレベルの授業見学（釜山外国語大学校の日本語授業） ② 教案指導 ③ オンライン実習 ④ 実習報告書の作成
9. 成果	今年度もコロナ禍ということもあり、オンラインによる日本語教育実習になった。オンラインでの日本語の実習ということで、参加学生はそれぞれ様々な工夫をして日本語教育を楽しく、効率的に行っていた。釜山外国語大学校の指導教員のフィードバック、コメントなどを十分に取り入れて、実際に行った教案を再度修正してもらい、2週間にわたる日本語教育実習の振り返りと修正教案を毎年報告書の形で残すことにしている。座学でしか知らなかった日本語教育も実際に日本語学習者を相手に教えてみて、学ぶ点が多かったことを参加学生は全員気づいたと思う。この実習の体験を今後、各自の将来に大いに生かしてほしいと願っている。
10. 備考	

以上

オンライン日本語教育実習を体験して

私は、卒業後の進路として日本語教師を視野に入れていました。また、日本語教育の主専攻を選択しています。その単位として、今回の実習に参加しました。何故、日本国内ではなく韓国での実習を選択したのかは、私が韓国語を自主学习しており、韓国の知識を持っていた、そして、韓国が好きという理由からです。私は日本国内、海外、どこで日本語教師をしたいかなどはまだ決めていません。なので、せっかくなら自分の好きな韓国で実習をしてみたいと思いました。

私が担当したのは、A2 レベルのクラスでした。また、学年は2、3年生が多いクラスでした。学科は、日本語学科よりも他学科の生徒が多くいました。それでも、日本語の上手な生徒もたくさんいました。私が今回担当したトピックは「からだと健康」です。その中でも、病院の受付や診察の時に使用する言葉など病院で使われる言葉をメインに行いました。

釜山外国語大学校は、**Can-do statement** を採用しており教科書がありません。その為、教材や授業内活動、学習する文法、単語、教え方などすべてを自分で考えなければなりません。また、教科書がないため、これまで学生がどんな文法を習ってきたのか、どんな単語を学習してきたのかなどが、一目でわかるものもありません。まだ、他の実習にも参加したことがなかった私は、右も左もわからない状態でした。しかし、担当の先生が実際に行った授業や、同じトピックを扱っている **Can-do** テキストを見せてもらい、なんとか授業を作り上げることができました。

今回の実習では、担当の先生から何か一つでもいいから **ICT** を活用した活動をすることを目標にしてくださいと仰っていただきました。そして、私に様々な **ICT** の活用方法を教えてくださいました。実際の授業では、**Padlet** や **Google** スプレッドシート、**Google** スライドなどの **ICT** を活用し、学生が主体的に学ぶことや、学生間の相互学習を産むことができましたと思います。どの方法も、今までの日本で受けてきた授業では使用したことのないものばかりでした。きっとこれからの日本語教育や授業で頻繁に使うことのできる、とても便利なものなので、今回の授業でそれが活用できるようになり、本当に良かったです。

私を担当してくださった先生は、授業内では教師の説明ではなく、実際のやりとりや学生同士の活動で学習してほしい、という方針を持っており、私もそのような授業がしたいと思っていたので、先生の授業を見学したとき、いろいろな活動をされていたので、とても勉強になりました。私の授業では、声だけでなくジェスチャーをする活動を取り入れました。ジェスチャーをする活動は、学生たちの表情がよくなったり、積極的に多くの生徒が活動をしてくれたように感じ、やはり自分たちが動く活動のほうが生徒は楽しめるのだろうと感じました。右の写真は、「熱を測ってください」という医者が発話に対して、患者がジェスチャーを行うという活動をしたときの様子です。

また、私は今回反転授業にも挑戦しました。授業の前に文法説明の動画を作成し、それを生徒

に見てきてもらい、実際の授業内では活動をメインに行う計画を立てました。しかし、反転授業はうまくいったとは言えませんでした。原因として、1つ目は動画を見ることを課題にしなかったことです。課題にしなかったことで、動画を見てこない生徒がいました。2つ目は、私の反転授業の組み立てがうまくできなかったことです。どこまで教室内で復習を行うのか、分かっていない生徒がいるとき再度解説はするのか、そこをしっかりと考え切れていなかったため、授業内でうまく対応することができませんでした。

全体の授業の反省点としては、教材づくりで準備が手一杯になってしまい、細かなところに配慮ができず、声が出ていない生徒や口が動いていない生徒へ適切なアプローチができませんでした。また、時間配分がうまくいかず、授業を延長してしまうことがありました。しっかりと準備し、心に余裕をもって行うことが大事だと気づきました。授業は、生徒に教師の力量を示すものではないということを、改めて深く感じました。

授業見学や先生の話を経て、先生はそれぞれの先生ごとに信念というものをしっかり持っているということを感じました。例えば、授業内の日本語と韓国語の使用について、授業中はすべて日本語で話す先生がいれば、指示は韓国語で行う先生もおり、その理由も様々でした。また、先生は、授業で行う活動や指示が学習者にどんな効果を生むのかということ、常に考えていました。他にも、YOUTUBEではなく、学校、クラスで学習する意味は何なのかなど、本当にいろいろなことを学習者のために考えており、とても衝撃を受け、感動しました。だからこそ、どの先生の授業にもそれぞれの魅力があるのだと思いました。

まずは、自分がどんな教師をめざすのか、というのをしっかり考えることが大事だと思いました。そして、自分もいつか担当してくださった先生のように学習者のことを考えられる教師になり、クラスで教えるからこそ獲得できる何かを与えられる教師になりたいと思いました。

改めて、日本語教師について考えられる、素晴らしい機会をいただきました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

オンライン日本語教育実習を体験して

今回、釜山外国語大学校でのオンライン教育実習に参加し、日本語教師として成長するきっかけを沢山頂きました。私は他の教育実習生とは異なり、大学院生であり、既に社会人経験がありました。また日本語教師としては、国内の日本語教育機関で数年指導経験があり、フレッシュな実習生ではなかったのですが、受け入れてくださったことに大変感謝しております。この教育実習に興味を持ったきっかけですが、**Can-do** シラバスに基づき、各教師がオリジナリティのある授業を行っていることです。更にこの大学ではまず教科書がないということに驚きました。国内の日本語教育機関に勤めていたときは、主教材と副教材があり、教え方は学校や教師によって、オリジナリティはあるものの、教師用指導書に沿ってなど、授業の流れや教え方はある程度決まっていた。そのため、釜山外国語大学校で、一から教案を考え、授業を組み立てていくというスタイルをぜひ体感してみたいと思いました。

また、コロナ禍の影響で今回は、初めてのオンラインでの教育実習ということでしたが、自身は、オンラインでの授業経験がなかったので、今回の実習を通して、オンラインでのスキルを少しでも身に付けたいと思いました。現地に行ったら、直接先生方や学生と交流し、韓国の文化や料理などを楽しむこともできたと思いますが、オンラインならではの学びが沢山ありました。教案作成時にオンラインでのトラブルに備え、対策は考えていましたが、実際に授業を行った際、インターネットのトラブルが原因で、**ZOOM** が何度も落ちてしまったり、音声聞こえなかったり、途切れたりと思うような授業はできず、予定していた活動や準備していた **BGM** や音響効果などは使用できないまま終わりました。授業を楽しみにしていた学生の貴重な時間を台無しにしてしまったことが悔やまれます。しかし、学生は優しく授業に積極的に参加し、真面目に取り組んでくれました。授業の最後の挨拶で大きな拍手をしてくれたこと、感謝の言葉を伝えてくれたことが、大きな励みになりました。

様々な失敗はありましたが、オンラインでの授業に際し、どのような問題や注意点があるかということ、また今後はどのような点に気をつけて望むべきか、対策を考えるかを身に染みて学ぶことができました。今回の経験を糧に、日本語教師として成長できるように努力していきたいと改めて思いました。

今回の教育実習では、教案の指導や授業のフィードバック、様々な先生方の授業見学を通じて、学んだことや得たものが沢山ありました。改めて感謝いたします。

特に指導教員からは懇切丁寧な教案の指導、また日本語教師としての考え方、学生に対する接し方等々、様々なご助言を頂きました。自身はこれまで日本語教師として構造シラバスに沿って教科書を中心とした授業を行ってききましたが、釜山外国語大学校では、教科書がなく、**Can-do** シラバスには、新出文型の記載もなく、最初はどのように **Can-do** を達成するための授業を組み

立てたらよいか漠然としていました。更に担当のクラスが B1-2 でしたが、これまでの経験では初級学習者への指導がほとんどで、中級の経験もあまりなかったため、何を教えたらいいいのかも分かりませんでした。教案指導頂いた際に指導教員の教え方の参考例を見せて頂き、イメージは掴めましたが、それでもまだ一向に教案が進みませんでした。更にコロナワクチンの副作用のため高熱が出てしまい教案作成のスタートが大幅に遅れてしまいました。そのため、最初の教案指導も予定を変更して頂き、不安と焦りの中で、なんとか指導教師の教え方を模倣しながら教案を作成しました。その教案は自身のオリジナリティがほとんどない状態でしたが、教案指導の際に、自身の社会人経験や趣味を授業で活かせるようなアイデアを引き出してくださいました。また指導教員の経験談や担当クラスのレベルに対し、学生への接し方や語彙の選択、話すスピードなどをご助言頂き、沢山ヒントが得られました。そのお陰で教案を無事に完成させることができました。お忙しい中、授業の前日までご指導頂き、本当にありがとうございました。

また、限られた期間でしたが、可能な限り、様々な先生方の授業を見学させて頂きました。オンライン授業ならではのアプリを使用したゲーム、音響効果を取り入れ学生の興味を惹くような工夫、そして、学生への接し方や気持ちの伝わる話し方や間の取り方、教師としての姿勢等、学ぶべき点が非常に多かったです。実際に現場に出ると他の教師の授業見学をする機会はなかなか持てないので、とても貴重な機会でした。授業見学を通じて得た学びを今回の実習でも早速、実践させて頂きました。そして現場で学習者に教える際にも実践したいと思いました。沢山の学びの機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。